

製品名: TEL ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab18782

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	53kDa

抗原情報

遺伝子名	ETV6
別名	ETV6; TEL; TEL1; Transcription factor ETV6; ETS translocation variant 6; ETS-related protein Tel1; Tel
遺伝子 ID	2120.0
SwissProt ID	P41212
免疫原	抗血清はヒト ETV6 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 371-420

背景

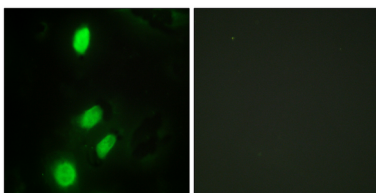
この遺伝子は ETS ファミリー転写因子をコードする。この遺伝子産物は 2つの機能ドメインを含む。一つは N 末端尖端 (PNT) ドメ

インであり、これは自身および他のタンパク質とのタンパク質間相互作用に関与する。もう一つはC末端 DNA 結合ドメインである。マウスを用いた遺伝子ノックアウト研究では、この遺伝子が造血および発達中の血管網の維持に必要であることが示唆されている。この遺伝子は、白血病および先天性線維肉腫に関連する多数の染色体再編成に関与することが知られている。[RefSeq 提供、2008 年 9 月]、疾患：ETV6 に関連する染色体異常は、好酸球増多を伴う慢性骨髄増殖性疾患（MPE）の多くの症例の原因である [MIM:131440]。5 番染色体上の PDGFRB との転座 t(5;12)により、ETV6-PDGFRB 融合タンパク質が形成される。疾患：ETV6 に関連する染色体異常は、急性リンパ性白血病の原因となる。PAX5 との転座 t(9;12)(p13;p13)。疾患：ETV6 に関連する染色体異常は、骨髄異形成症候群（MDS）の原因となる。MDS2 との転座 t(1;12)(p36.1;p13)。疾患：ETV6 に関連する染色体異常は、慢性骨髄単球性白血病（CMML）の一種に認められる。PDGFRB との転座 t(5;12)(q33;p13)。異常なクローン性骨髄増殖と急性骨髄性白血病（AML）への進行を特徴とする。疾患：ETV6 に関連する染色体異常は、プレ B 急性骨髄性白血病の一種に認められる。JAK2 との転座 t(9;12)(p24;p13)。疾患：ETV6 に関連する染色体異常は、急性好酸球性白血病（AEL）の原因となる可能性がある。ACSL6 との転座 t(5;12)(q31;p13)。疾患：ETV6 に関連する染色体異常は、好塩基球増加を伴う骨髄異形成症候群（MDS）の原因となる可能性がある。ACSL6 との転座 t(5;12)(q31;p13)。疾患：ETV6 に関連する染色体異常は、急性骨髄性白血病（AML）の一種で認められます。MN1 との転座 t(12;22)(p13;q11)、CHIC2 との転座 t(4;12)(q12;p13)。疾患：ETV6 に関連する染色体異常は、小児急性リンパ芽球性白血病（ALL）で認められます。RUNX1/AML1 との転座 t(12;21)(p12;q22)および t(12;21)(p13;q22)。疾患：ETV6 の欠陥は、急性骨髄性白血病（AML）[MIM:601626]の原因です。AML は、造血前駆細胞が発達の初期段階で阻害される悪性疾患です。機能：転写抑制因子。DNA 配列 5'-CCGGAAGT-3'に結合します。PTM：リン酸化されます。PTM：MAPK14 (p38) による Ser-257 のリン酸化は、ETV6 の転写抑制を阻害します。類似性：ETS ファミリーに属します。類似性：ETS DNA 結合ドメインを 1 つ含みます。類似性：PNT (尖った) ドメインを 1 つ含みます。サブユニット：TEL2 または FLI1 とホモ二量体またはヘテロ二量体を形成できます。L3MBTL および HDAC9 と相互作用します。組織特異性：普遍的です。

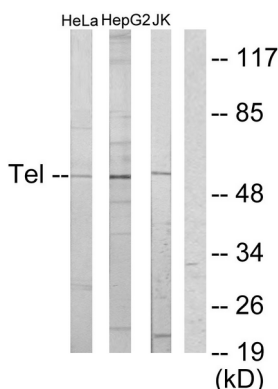
研究分野

背腹軸の形成;

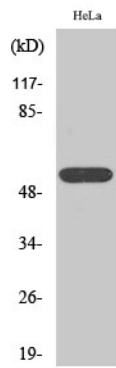
画像データ



ETV6 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



ETV6 抗体を用いた HeLa 細胞、HepG2 細胞、Jurkat 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーン合成ペプチドでブロッキングされている。



TEL ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析